



(鵲が音)

たづがね

1月9日発行

「笑顔いっぱい」「元気いっぱい」「夢いっぱい」の西北台っ子

令和6年能登半島地震により、被災された皆様にお見舞い申し上げます。

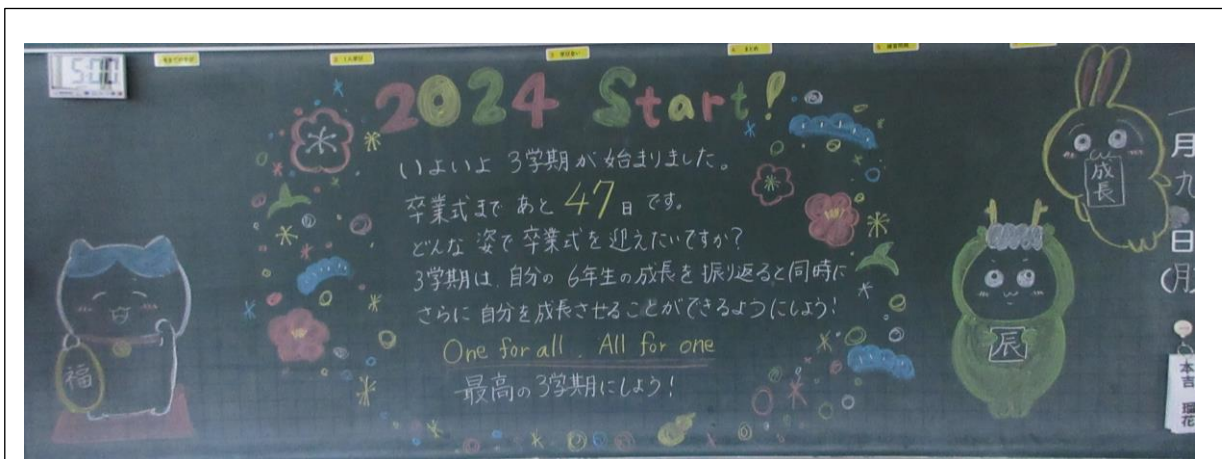
1月1日の朝を迎え、心を新たにした方も多かったことでしょう。天気も良く、夕方には、神社・寺へ参拝に向かう車で道路は列をなしておりました。

地震発生時、外にいた人、車の中にいた人、家の中でくつろいでいた人……。揺れがおさまるとにかく学校を避難所と思い駆けつけると既に数台の車が敷地に入ってきていました。大津波警報が出されたのです。次々と車の列ができ、地域の方や卒業生が誘導や受付に力を貸してくれました。学校は、避難所として受け入れができる状態でした。しかし、断水により受水槽の水が減り、プールの水でトイレを流すといった状態になってしまいました。「何か手伝うことはありませんか。」進んで水を運ぶ仕事を多くの卒業生も手伝ってくれました。いざというときに行動できる姿は頼もしかったです。体育館や教室で一夜を明かした人も大勢いました。幸い停電になることなく救われました。1日～4日避難所を開設。給水所は、6日まで開設。避難所の片付けをしながら新学期の準備をしました。ところが、折角、松本市や長野県からの給水車のお陰で受水槽に水が供給され安心したのも束の間、下水管の破裂によるトイレ使用禁止。

学校開始に向けて、様々な案が出された結果、9日～12日まで、学校に登校後青少年交流の家を学びの場にする事にしました。

まだまだ余震が続きます。石川県全体での大きな被害が日を迫るごとに明らかにされています。安否不明者が大勢います。保護者の皆様におかれましては、くれぐれもお子さんとの避難の仕方を共有し、安全第一にお過ごし下さい。

今後とも学校へのご理解・ご協力のほどよろしくお願い致します。



全クラスに担任からの児童へのメッセージがかかれています。上記のものは六年教室の前面黒板です。